

山 弓 連

平成 27年 4月(1号)

今度こそ…

今年こそ…

会長 天野 裕

会員の皆様には新たな気持ちで27年度をお迎えのことと思います。

3月の総会で平成27・28年度役員については監事の小澤重平氏が勇退され、後任に中澤国弘氏が就任された他は全員留任ということになりました。従前同様直しくご協力をお願い致します。

全日本弓道連盟は公益財団法人に衣替えしたのを機に様々な改革を実施してきましたが、昨年4月から新競技規則が改定、実施され、この4月からは新しい審査規定も実施される運びになりました。公財日本弓道連盟の競技規則を適用しての競技では新規則のルールを是非確認の上、試合に臨んでいただき、審査でも特に五段以下の場合には事前に公開されている全国統一の学科問題に答えていただくこととなります。国際大会は勿論、全国規模の公式競技や審査会では、ワシントン条約や種の保存法で規制された鳥の羽根を使用出来なくなったものがあります。もう一度確認し手続きをした上で使用されますようお願い致します。

さて、弓に携わる者は思うように射が出来なかった場合「今度こそ」の意気込みで次の射を試み、次の射も上手くいかなければ今度こそ思いは更に昂じて、気が付けば数十本、数百本の矢数を掛けてしまう。このことは多くの方が経験してきたことでしょう。瞬時に或結果が現れることが弓に取り憑かれる理由の一つかも知れません。理由はともあれ、この「今度こそ」の思いは弓に限らずチャレンジするものを持つ人が活動する時の大きな原動力であることに間違いありません。稽古の中では次の射に、競技会では次に試合に、審査会では次の段位や称号へとこの思いが力となり、新たな年を迎えれば今年こそはと人を前進させる推進力になります。

選手強化部では、昨年度の国体へ成年・少年の各種別で参加権を得られなかった反省から、強化練習の方法や時間を大幅に変えております。国体選手を目指す働き盛りの人達が練習し易い日程と時間帯を設定しておりますので、各支部長さんから総会の資料を確認していただき一人でも多くの挑戦者が参加することを期待しております。これまで国民体育大会で活躍したいと思っていた方々、是非今年こそは…と一歩を踏み出して下さい。

山弓連の行事の中で一番多いのはやはり射会です。年間各種合わせて10回を下りません。新しい競技規則の則り、三人立ちと五人立ちの場合の入場のタイミングや射位に於ける立ち上がる間合いと弓を打ち起こす間合い、乙矢を番えて弓を立て、立ち上がって打ち起こす間合いの再確認と確実な実行に努めて頂きたいと思います。これが規則通り行われれば競技の運行は確実に時間短縮になります。今年こそは実行しましょう。

審査を受けられる方々の中には、山弓連が実施している講習会を受講していない人も見受けられます。的がある以上の申しなければ話になりませんが、的中さえすれば合格するというわけではありません。射術と体配は車の両輪と言われるように両々相俟ってこそ射が完成するわけです。一人稽古で身についた固癖のある射や礼に即さない体配では合格に結びつきません。講習会に参加しても的中する力がすぐつかないという不満があると聞きます。一日や二日の講習会での中率が上がるわけは無く、正しい形を身に付けることが先決であり、それを守りながら稽古する中での的中力を自ら体得するのが正道でしょう。礼に則した体配や理に叶った正しい射形は是非講習会で習得していただきたい。今年こそ…計画的に参加を願います。

審査は受審しなければ受かりません。受審しても合格できない場合の方が圧倒的に多いのが現状です。何故でしょうか。受審者は絶対に合格しないと確信して受審するのでしょうか。もしかしたら合格するかも知れないと僅かな期待

をも込めて臨む人が多いのではないのでしょうか。宝籤を買う心境かも知れません。日頃の練習で絶対的な自信を持って臨んでも思い通りに行かないのが試験です。いつも通りの実力を発揮する為に平常心、心気の安定、決断力、勇猛心、胆力、或いは無欲、無心などメンタル鍛錬の必要性が強調されますが、果たして日頃の道場でその様な鍛錬がなされているのでしょうか。的にのみ囚われた射術練習に終始してはいないのでしょうか。

四～五段までは射法・射技を確実に身に付け、礼を失することが無いような心遣いと振る舞いが出来るように求められます。新しい審査規定で要求されているレベルを再確認の上で審査に臨んで頂きたい。

高段になるにつれ、高位の称号になるにつれて求められるのは単に射術ばかりでなく、射品、射格の高さや品性豊かな人間性まで求められてきます。これは射場だけでは鍛えられない要素で、日常生活・社会生活を通して人となりや磨き鍛えることが要求されているわけです。射行を通じて人を創るという謂われがここにあります。「射即人生」には厳しいものがあります。射によって己を律し生活を律し、生涯を通して身につけた総てが射に反映されるという厳しさです。この厳しさを受け入れ楽しめる境地を目指して、さあ、今度こそ…今年こそ…会員諸氏の新たな決意とご健勝を祈念しております。

平成26年 おんいんピック県予選 平成27年4月12日(日) 小瀬式道館

第28回全国健康福祉祭やまぐち退会 山梨県代表選手

宮崎克行、金子 力、土橋 亨、青島 勉、古屋昭子、小林義雄、曾根敦子

同日予選開催 全日本勤労者弓道選手権大会

派遣チームは 横河電機、日立AMS と決定しました。

指導部より 部長 小林源治

新年度の各専門部の抱負を、との事でしたが、指導部では各講習会での受講を1人でも多く、と、言う事で書かせていただきます。弓道には何通りかの考え方があり、余暇を楽しみストレス解消を目的とする方々。

良く中てて各試合で勝ち、名を上げようといわゆる中てっこに専念する方々。

体配と射術は車の両輪と考え、教本一卷の巻頭に宇野範士が、射法射技の研修、礼に即した体配の修練、射品射格の向上、人間完成の必要、の四つが弓道修練の眼目であり射法射技が渾然一体となり品格のある射を目指して日々努力しましょう、と、仰っております。それを実践しようと努力している1人でも多くの会員の皆さん方のお手伝いが出来たら、と、参加をお待ちしております。県内講習会で何回も何回も何の気負いも無く平常心でスラスラと体配が出来るようにならなければ中央審査にはまず受かりません。

「俺んとうよりもっと下手な人も受けに行ってるだから俺らも行くじゃん、まちがって二本中れば受かるかもしれんよ」と、言って受審した人が居ました。絶対に受かりませんよ！

四月五日、佐久間範士を招いて講習会があり、先生のご指導で射技研修中は多くの弓士がとても上手く引ける様になり先生も喜んでおられました。その人達に仕上げの一ツ的をやっていただいた所、的中がガクンと落ち先生に「ヨシッ！」と、ほめられた射から遠のいた。それが二次審査で合格者の(一次審査においても)少ない原因であるから県内講習会をどんどん利用して、年配者には枯れた弓を、若者には、はつらつとした豪快な弓を、と、言うておられました。連盟行事の講習会は、高段者、四・五段、参段以下、と、それぞれ二回ずつしか行われておりません。

以前はもっと多かったのですが、冬の寒い時、夏の酷暑時、受講者が三名とか五名しかおらず中止。今は六回になっ

てしまいました。

又今年も六月二十八日の伝達講習会は段位の区別無く誰でも受講できる日で、関東南部講習会を受けて来た先生方が指導してくれます。教士の指導委員の先生方も年々年を重ね、若い弓士の昇段、昇格と山弓連のこれからを担う若い弓士の参加を心から待っております。それにはやはり場に慣れる為の講習会は欠かせません。待っています。そして宜しくお願いします。

平成26年度 段位別兼全日本、関東選抜予選会 平成27年4月19日(日) 小瀬武道館

総参加数・73名 申込数・参段以下40名 参加37名 申込数四段17名参加14名 開始9時30分
 申込数 五段 20名 参加18名 申込数称号30名参加29名 終了15時20分

4月半ばを過ぎても肌寒い中を98名の大勢の参加者を得て、山弓連の全員が参加できる新年度最初の大会が開催され、今年こそは！今年こそは！のチャレンジ精神で弓道に励んでほしいと、会長の熱い激励のあいさつで始まり、半分け以上の的中をめざし、気合いこもった大会が繰り広げられました。是非6月の2次選考会には素晴らしい成績を期待したいと思います。

		1 2 3 4 5 6 7 8 的中													
参段以下	優勝	渡辺 亮	富士吉田	参段	○	○	○	○	○	○	×	×	6	○	
	2位	大須賀 達也	甲府	初段	○	○	○	○	×	×	○	○	6	×	
	3位	猪瀬 里子	中央	式段	×	○	×	○	×	○	○	○	5		
3位5中5名遠近競射															

四段	優勝	鮫島 誠一	甲府	四段	○	○	○	○	○	○	○	×	7	○	○	○
	2位	青島 勉	中央	四段	×	○	○	○	○	○	○	○	7	○	○	×
	3位	小林 好雄	大月	四段	×	○	○	○	×	○	○	○	6	×		

五段	優勝	長澤 和久	南アルプス	五段	○	○	×	○	○	○	○	○	7	○	×	○
	2位	山下 弘行	山梨	五段	○	○	○	○	×	○	○	○	7	○	×	×
	3位	渡辺 幸太	上野原	五段	○	×	×	○	○	○	○	○	6			
3位6中2名遠近競射																

称号	優勝	内藤 幸雄	甲府	錬士六段	○	○	○	×	○	○	○	×	6			
	2位	竹村 栄寿	甲府	錬士五段	×	×	○	○	○	×	○	○	5			
	3位	綿奈部 博史	甲府	教士六段	×	○	○	○	×	○	○	×	5			
2位3位5中6名名遠近競射																

競技部年頭の抱負 長田長久 競技部長

- 26年度には、支部長、競技役員各位におかれましては、誠にご苦労様でした。又、多大なご尽力頂き感謝お礼申し上げます。1、武技による心身の鍛錬を通じて人格を磨き見識を高め有為の人物を育成することを目標とする。2、稽古に当たっては、終始礼法を守り、基本を重視し、技術のみに偏せず心技体を一体として修練する。3、試合や形の演武に臨んでは、平素練磨の武道働精神を發揮し、最善を尽くすとともに、勝っておごらず負けて悔やまず、常に節度ある態度を堅持する。4、道場は、心身鍛錬の場であり、規律と礼儀作法を守り、静肅、清潔、安全を旨とし、厳肅な環境の維持に努める。5、指導に当たっては、常に人格の陶冶に努め、術理の研究・心身の鍛錬に励み、勝敗や技術の巧拙にとらわれることなく、師表にふさわしい態度を堅持する。6、普及に当たっては、伝統的な武道の特性を生かし、国際的視野に立って指導の充実と研究の促進を図るとともに武道の発展に努める。 会員の皆様方のご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。